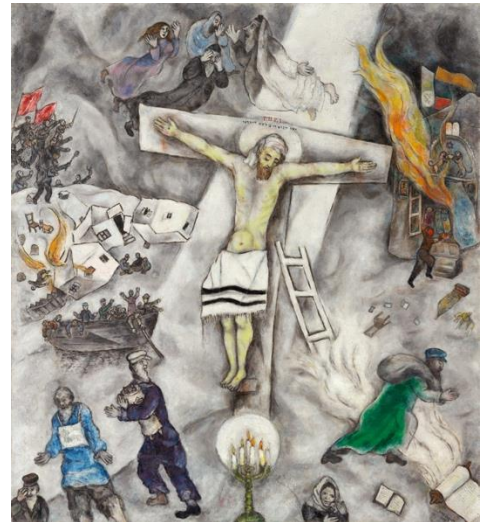


## 巻頭言 「困難な世界の真ん中に」

宇野 元

画面の左上に赤い旗。暴力と戦争の 20 世紀の歴史が浮かびます。絵の中央に、十字架にかけられたイエス・キリスト。暗い空。火。難をのがれようとする人の群れ。倒れる人。困難な世界の中心に苦難のキリストが描かれています。



「イエス様、わたしたちを憐れんでください」  
(ルカ 17, 13)

よく見ると、キリストの腰布は、ユダヤ人のもの。また、キリストの足元には特色あるユダヤの燭台が置かれています。それから、右下には巻物の形の聖書が。炎があがる建物は、ユダヤ教の会堂。

シャガールの名作「白い十字架像」(1938年)は、ナチス・ドイツによるホロコーストのきっかけとなった事件、「水晶の夜」のあとに製作されました。イエス・キリストが、ユダヤ人の大きな苦難を引き受ける方として描かれていることが鮮やかに伝わってきます。

教会史の大家ヤロスラフ・ペリカンが、次のように記しています。弟子たちの苦難を知らせるイエスの言葉「人々はあなたがたを会堂から追放するだろう。しかも、あなたがたを殺す者が皆、自分は神に奉仕していると考えるときが来る」(ヨハネ 16, 2)が、この絵では、まったく逆転した仕方で、イエスの弟子だと言い張る人々によるユダヤ人迫害において実現しているかのようだ。

人間の歴史は、人間の素晴らしさだけでなく、人間の過ちを知らせています。世の罪をキリスト教会も深く負っています。今の世界の混乱について、私たちも自分自身のあり方を脇に置いて語ることはできません。

イエス・キリストの十字架は、まさにキリスト教会にふさわしい。そして全世界にふさわしい。

時代の苦難の中に救い主がいます。私たち人間が作る罪深く、救いを必要としている世界、その真ん中に、今もイエス・キリストの十字架が立てられています。